

第2回 相模川ふれあい巡視（相模川中流部）

開催報告

1. 概要

日時：平成21年10月18日（日） 9：00 ～ 16：45

場所：相模川中流部（相模大堰周辺～磯部頭首工下流）

人数：一般参加者22名、世話役10名、スタッフ等31名 計63名

主催：相模川ふれあい懇談会

内容：「相模川ふれあい巡視」は、相模川のより良い川づくりのため設立された「相模川ふれあい懇談会」主催のもと、沿川にお住まいの皆さまや、相模川に関心を持たれている皆さまと懇談会関係者・河川管理者・自治体が一緒に川を歩き、河川に関しての感想・意見・提案等を頂くことを目的として開催しました。

9：20 ～ 14：20 相模川中流部の巡視

15：00 ～ 16：45 巡視を終えての意見交換

2. 集合、開会のあいさつ

浜口ふれあい懇談会会長の挨拶、厚木土木事務所三上工務部長の挨拶が行われました。

（浜口会長）：挨拶

- ・ 川の様子を見て気付いたことを出し合い、そこから問題点を探っていくという趣旨で、川について改めて見直してみようということでお願いしたい。

（三上工務部長）：挨拶

- ・ 足元が悪い部分もあるので気をつけて宜しくお願いします。



3. 巡視

① 巡視個所 1：相模大堰（9：35～10：25）

（説明）厚木土木事務所、世話役

- ・ 相模大堰は平成 10 年に完成、取水開始している。堰の両端には魚道が設置され、鮎の遡上への影響を軽減している。堰直下の中洲はコアジサシの営巣地となっている。
- ・ 高水敷の利用は、酒井スポーツ広場では、休日には多くの人々が野球などを楽しんでいる。
- ・ ほほえみ広場では平成 11 年頃に既設水路を利用した多自然の親水施設の整備を行っている。
- ・ 多目的広場ではバードゴルフなどが行われている。
- ・ 低水路内の小水路に以前はアユが生息していたが現在は生息していない。
- ・ 高水敷のグラウンドは昭和 62 年頃に完成した。
- ・ 全長 700m の低水護岸は神奈川県でも最初期に多自然型の整備を行った箇所である。
- ・ 高水敷は冠水するとシルト質の土砂が 10cm から 20cm 堆積し、風、車の進入により砂埃が立ち上がる。
- ・ ほほえみ広場の護岸は階段護岸としている。
- ・ 低水路内の小水路に以前はメダカが生息し、ミクリが生育していたが、現在確認できない。
- ・ 低水護岸は平成 11 年に完成した。完成当初は子供が水遊びしていた。
- ・ 東名高速道路の排水で水質が悪化したが、対策を行ったことで改善している。
- ・ 子供の事故防止のため、意識啓発・指導を行っている。
- ・ 低水護岸上の植生は定期的に除草しているが、中洲側は手を加えないようにしている。
- ・ ヤブガラシ、アレチウリが増加している。
- ・ カヤネズミ、オオタカ、チョウゲンボウ等も減少傾向にある。
- ・ 水遊びできることが整備のコンセプトである。
- ・ 藍染、自然観察会など地域住民の自然活動に活用されている。

（質疑等）

- ・ ほほえみ広場について、境田川の水はきれいになったのか。
→ 東名高速の雨水排水が流入していたが、現在はきれいになっている。厚木市で水質観測しているが、改善傾向である。
- ・ 子どもは遊びに来ているか。
→ 最近は魚が少なくなったため、遊びに来る子供が減ったのではないかと考えている。
- ・ 橋梁の堤防に接する個所は洪水の際大丈夫か。
→ 水理的、構造的に問題はない。



② 巡視箇所 2 : 三川合流 (10 : 45~11 : 10)

(説明) 厚木土木事務所、世話役

- ・ 相模川、中津川、小鮎川の 3 つの河川が合流する箇所である。
- ・ 景色がよく、大山を望むことができ、相模川八景に選ばれている箇所である。
- ・ 海老名市河原口の 1.6km 区間について、築堤や高水敷掘削を行う河川改修工事を実施している。あゆみ橋付近では河川幅が 250m と狭く、370m に拡幅し、治水安全度を向上させる事業が行われている。
- ・ 利用に関して、花火大会、アユ祭り、クリーンキャンペーンなどいろいろな行事が行われている。

(質疑等)

- ・ 相模川と中津川を比べると中津川の方の傾斜が急ではないか。
- ・ 具体的な流量の割合はどのくらいか。
→ 計画高水流量で相模川が $7,300\text{m}^3/\text{s}$ 、中津川が $1,000\text{m}^3/\text{s}$ 、程度である。
- ・ 中津川には無堤箇所があるのではないか。
→ 1,700m の無堤区間があり、今後、整備計画の中で整備していく。その他の整備は行わない予定である。
- ・ 過去の巡視等を考えても、海老名市側の整備が進んでいる印象がある。
→ 厚木市側はすでに整備が完了しているので、特に整備を行う予定はない。
- ・ 川底において土丹の箇所が増加した理由は明らかとなっているのか。
→ いろいろな原因が複合していると考えている。
- ・ 河床における土丹の露出箇所の増加は、底生生物が棲みにくく、アユの産卵床に不適である。
- ・ 砂利が少なくなったのはダムにより砂が移動しなくなったのではないか。
- ・ また、ダムにより流量が平均化して、洪水が減少したことで、樹林化も進み、これの解決が整備計画で重要ではないかと考える。



③ 巡視箇所 3 : 県立三川公園 (11 : 30~12 : 15)

(説明) 厚木土木事務所

- ・ 県立相模三川公園は平成 16 年に開園している。広さは約 11.9ha で、上流側にグラウンドもあり、休日は多くの方に利用されている。県が管理する施設である。
- ・ 春、秋のせせらぎ祭りなど、イベントも多く行われている。
- ・ カワラノギクは保全地がこのほかに 3 か所ある。
- ・ カワラノギクは 1989 年に絶滅危急種に指定され、1996 年に神奈川県内の絶滅危惧 Ia 類に分類されている。
- ・ カワラノギクは乾燥に弱く、他の植物の日陰になると生育が止まる特徴がある。

(質疑等)

- ・ 現在の年間の維持費はどのくらいか。
→ ここでは確認できない。
- ・ 厚木側の公園計画はどのようになっているか。
→ 住民の方と県立公園の都市計画決定に向けて打ち合わせを始めたところである。
- ・ 施設の人件費など維持費がかかる施設であり、自然のままに残す方がよいのではないか。
→ 現段階の方針としては、県立公園を整備する計画としている。
- ・ この公園計画はこの河川整備計画に載るのか？
→ 海老名側の相模三川公園と同様な整備を計画している。
- ・ スポーツ施設などの利用に偏っているのではないか。
→ 貴重なご意見として伺う。
- ・ 厚木市からもこの公園に遊びに来ており、厚木市側の整備が遅れているのではないか。
- ・ カワラノギクの種子はどこから購入したのか。
→ 湘南小学校の近くに自生地があり、種子を採取したものである。
- ・ 神奈川県レッドデータブックの絶滅危惧 IA という貴重な植物で、環境変化に敏感であり、他の河川の種子を相模川に持ち込むことは絶対に止めていただきたい。



④ 巡視箇所 4：座架依橋周辺（12：50～13：20）

（説明）厚木土木事務所

- ・ 座架依橋水辺広場は平成 8 年に半円形の親水施設を整備しており、休日にはたくさんの方々が訪れる。
- ・ 上流側のグラウンドでは毎年 5 月に大凧まつりがおこなわれている。座間市で 1 箇所、相模原市で 4 箇所行われており、全体で 10 万人が訪れる。
- ・ 親水広場や河原ではバーベキューの利用者が多い。
- ・ 対岸では平成 18 年度から置き砂の施工を行っている。平成 20 年度には、相模ダムの浚渫土砂を混ぜて行っている。先日の台風 18 号の際にどの程度流出したか、現在測量調査中である。
- ・ 下流側では過去には湧水が多い箇所があり、水遊びなどでにぎわっている。

（質疑等）：

- ・ 置き砂の量ほどのくらいか。
→ 5,000m³である。



⑤巡視箇所5：磯部頭首工（13：35～14：20）

(説明)厚木土木事務所

- ・ モトクロス、4WD、ラジコンの利用が特徴的な箇所である。
- ・ ハリエンジュなどの樹林化が進行している箇所であり、不法投棄が多い。
- ・ モトクロス、4WD、ラジコンの利用者に対して、形状変更・踏み荒らしに対する申し入れに対して、猿ヶ島利用者連絡会が組織され、利用のルールを作ってからでは苦情もみられない。毎年、定期的に利用者がゴミ清掃を行っており、不法投棄が減少している。
- ・ 連絡会が利用ルールの看板を設置している。
- ・ 芝生がある箇所はラジコンの滑走路としてラジコン愛好者が使用している箇所である。
- ・ 猿ヶ島地区は、モトクロス、ラジコンのほか、河原ではバーベキューも行われているなどたくさんの利用者がいるが、今のところは利用者間のトラブルも無い状況である。

(質疑等)

- ・ 厚木市の多目的広場の計画についてどのようなになっているか。
→ この区域の半分程度を利用することを計画している。利用計画の具体内容は決定していない（厚木市回答）。
- ・ 利用希望者だけの意見を募ると、環境保全を望む人の意見は反映されないのではないか。
→ いろいろな方の意見を伺って進めてゆきたい（厚木市回答）。
- ・ 以前はカワラノギクの自生地であった箇所であり、保全を重視してほしい。
→ 樹林化した箇所の再生、利用共に考えたい（厚木市回答）。
- ・ モトクロスは他に盛んな箇所があるか。
→ 海老名の中新田、戸沢橋上流で確認されている。
→ ラジコン、モトクロスは他の箇所でできなくなった利用者がここに集まっている状況である。
→ ラジコンに関しては、多摩川などで出来なくなった愛好者が、民地を借用して利用している。
→ 周辺に民家がないので、騒音に関する苦情がない状況である。
- ・ モトクロス利用者の走行範囲は拡大してきており、利用範囲を限定する仕組みが必要ではないか。



4. 意見交換会

時間：15：00 ～ 16：45

場所：厚木市役所第2庁舎 16F会議室

参加者は10人程度のグループ4つに分かれ、現地を見学して「感じたこと」などを「治水」「利水」「環境」「その他（利用）」の4つの種類ごとに決められた色の付箋紙に書き、航空写真に貼っていきました。各テーブルには河川管理者（国・県の職員）が同席し、質問への対応を行いました。

意見交換会を始めるにあたり、大場技幹の挨拶、井川主査より議論の進め方について説明がなされました。

（大場技幹）：

今日見たこと考えたことのご意見を頂き、これからの川づくりに反映していきたいと思っていますので、ご協力をお願いしたい。

Aグループ

発表・まとめ役：西井氏

（環境）：

- ターゲットバードゴルフ場を中止してビオトープにしてもらいたい。モデル地区として発展してもらいたい。

（利水）：

- ほほえみ広場も水が少ない。魚もいなくなった。
- 相模大堰上下流について、水の量が少ない。学校も近くにあるので、河川の利用としてグラウンドよりは水辺の学校のような整備をしてほしい。

（その他）：

- まとめる時間が足りない。
- 相模大堰に残っている桁に橋をかけられないか。
- 三川公園について、左岸の利用計画の考え方をしりたい。厚木市側も海老名市側と同じように整備してほしい。厚木市側の説明が全くない。
- 三川合流点の水辺に入っていくやすくしてほしい。
- 三川公園を下流に拡大してほしい。土地の取得まで終わっている。これから前向きに進んでもらいたい。
- 駐車場とバーベキューのエリアをもう少し明確にした方がよい。駐車場の位置に問題がある。マナーが悪い。河原への車両の乗り入れを禁止すべき。
- 猿ヶ島のもトクロス、ラジコンについてはルール作りが必要。
- スポーツ広場ばかりを作っている。河川の利用というのはスポーツ広場という固定概念になっているのではないか。
- 川全体に関してルール作りが必要。
- 堤防道路をサイクリング道路にしてほしい。
- 迷惑音を出さないでほしい。
- スポーツ広場の砂埃がすごい。



Bグループ

発表・まとめ役：臼井氏

(環境)

- 自然破壊が行きつくところまで来ており、これ以上の開発はやめるべき。
- 外来植物が蔓延している中で、河川環境の復元策を具体的に作るべき。対応策があるのか？
- 川のアーマーコート化（粗粒化）については、きちんと原因を探って対策を打つべき。魚等の生育環境を狂わしている。
- 磯部頭首工下流は自然利用ゾーンとなっているのに、なぜ人工的な利用がされているのか。
- 座架依橋に流木が溜まっているが、処分が必要なのか？行政として方針はあるのか？
- コアジサシが飛来しない原因を見つけてほしい。

(利水)

- 川に水を取り戻すために水利用の在り方をもう一度再検討して具体策を実行すべき。

(その他)

- 今回の意見を整備計画に反映させるために、現状計画されているものを一旦棚上げにしてさら地に戻すべき。
- スポーツグラウンドが多すぎる。
- ラジコン、モトクロス等については利用ルールを定めてやるべき。
- 企業団やダム管理事務所、漁協なども参画して意見交換をすべき。
- 市民、事業者、行政と一緒に意見交換する場を作るべき。
- 不法耕作地があるが、許可されているものなのか？
- 意見交換する時間がもっとあった方が良い。



Cグループ

発表・まとめ役：岡田氏

(治水)

- みお筋が固定化している。川の流れが動かなくなっている。人工的な洪水も含めて考えて、河川の管理の在り方を検討してほしい。

(環境)

- 全体的に相模川の水量が少なくなっている。豊かに流れる相模川というイメージ通りに相模川の水量を基に戻せないか検討してほしい。
- 外来植物の駆除の必要がある。駆除する時期、タイミングなどを検討する必要がある。
- 川のもつ生物の多様性（複数のみお筋・細流、湿地、生物の生息環境など）をどういった形で保全・復元するのか検討してほしい。
- 三川公園について、河川環境に配慮した整備が必要。
- あゆみ橋付近から三川公園について、河道を掘り下げた後は親水公園として整備してほしい。
- 酒井スポーツ広場について、コンクリートブロックをとり、自然なものに置き換えてほ

- しい。生物がより住みやすい環境を作る。
- 小鮎川右岸側について、もっと人が自然に親しめる環境ができるよう、自然の河原に戻す。
- 磯部頭首工について、固定堰を取り払い、自然の川に戻す。固定堰で内取水方法を検討する必要がある。
- コアジサシを指標として、これが生息できるような環境をつくれれば他の色々な生物にも良い影響が出ると考えられる。

(利水)

- 水需要は横ばい、下降気味のため、相模大堰は必要なく、できるだけゲートを開けるべき。

(その他)

- 全体としてゴミが少なかった。色々な人が管理していることがうかがえた。
- 河川の利用と河原の環境のバランスをどう取るのかが大きなテーマとなるので、考えていかなければならない。
- モトクロス利用は、場所の住み分けや使う時間などのルール作りが必要。場所を限定して利用する、あるいは利用料をとって管理にあたるなども考えられる。
- 河川の環境と人工的な利用のバランスが崩れている。人工的な利用を抑制する方向で検討が必要。
- 厚木市側にサイクリングロードを整備してほしい。



Dグループ

発表・まとめ役：小島氏

(環境)

- カワラノギクなど在来の植物を育成することで、河原の保全ができないだろうか。
- 河川敷の利用について、自然保護のための利用が第一である。一方で整備されている公園も良いと感じる。自然を保護するという点と人が利用できる形、このバランスを考えてほしい。
- 三川合流点は、自然景観の保全と人工の利用のバランスがうまく取れており、見本になるのではないかと。

(その他)

- 相模大堰下流は大変荒廃しているため、取水はするが、放水して川を管理する、川を活かす方法を利用すると同時に十分考える必要がある。
- 三川合流点のタワーにみんなが自由にに入れる・展望できるようにしてほしい。
- 座架依橋の湧水など、相模川の真実の姿をもっと教えてほしい。勉強する必要がある。
- 運動広場はもう必要ないのではないかと。



質問に対する回答

発表中に出された質問に対して、宮田相模川環境課長が回答しました。

(宮田相模川環境課長)

- ・ 外来種の駆除は、県も順次積極的にやっているが、今後のどのようにやっていくか、やり方は検討していきたい。自治体や地元も協力してほしい
- ・ ゴミについては早急に対応している。流木については状況を見て、管理上支障があれば早急に処理したい。
- ・ コアジサシについては今後の検討課題としたい。



5. 閉会の挨拶

浜口会長の総括が行われ、続いて元永所長の挨拶が行われました。

(浜口会長)：総括

- ・ これだけ大きな川の姿としてみると、川の流れが痩せているという印象を受けた。今後どう
いう形でこれを豊かにしていくかが大きな問題であり、今の姿で良いと思っているわけには
いかない。
- ・ 川の利用として、家族での利用などが大事だと思う。こういう利用が気軽にできる場所が手
薄なのかと思う。こういうことも頭に置きながら考えないといけない。芝生も大事だが、木
陰も大事で樹林地を残して利用するのは場所によっては良いと思う。
- ・ 水辺の楽校など、川で遊び、学べる場所がもっとあって良いと思う。そういう側面から支
援・援助することを考えていく必要がある。
- ・ 河川敷が平らという印象を受けた。地形的な凹凸がもっとあってしかるべきであると思う。
外来種も広がり易い。

(元永所長)：挨拶

- ・ 色々な表情、歴史や利用も含めた相模川の姿をもっと知らないといけないと思った。見える
川、動きを見てもらう必要がある。
- ・ 今後、河川の利用と環境のバランスなど、しっかり考えていかないといけない。



以上